

令和7年度 (宮城県立名取支援) 学校の研究概要 ~令和8年1月末現在~

運営委員氏名 (佐藤 明日美)

研究テーマ	個に応じた指導力の向上を目指して（3年次/4年間） ～「個別の目標シート」の活用を通して～
研究目標	<3年次の目標> 目標の妥当性や手立ての過不足をT・T間で共有し、個に応じた指導力の向上を目指す。
研究内容・方法 研究計画等	<p>1 全体研修「個別の目標シートを作つてみよう」の開催 (指導主事学校訪問指導)</p> <p>個別の目標シートを作成することを通して、学習指導計画の内容における個別の目標や手立てを、三つの柱に沿つて明確にすることにより、個に応じた指導力の向上を目指すことをねらいとして、全体研修を開催した。各学部で小グループに分かれ、一つの小単元を選び、担当している児童生徒の個別の手立てを考え、T・T間で共有した。</p> <p>2 学部ごとの学び合い（3つの研究授業）</p> <p>3 研究に関する研修</p> <ul style="list-style-type: none"> • 7/25 専門性向上研修会（支援部と研究部の共同開催） 「発達障害のある児童生徒に対する指導と療育について」 講師 宮城学院女子大学教育学部教育学科 教授 白石 雅一氏 • 8/22 選択研修「夏の研修会」 講師：本校教員9名、4講座 <ul style="list-style-type: none"> ① 手話講習会 基礎編 ② I C T講習会 プログラミング、生成A I の使い方 ③ 保護者支援と関係機関との連携 ④ 障害のある生徒の進路指導について <p>4 情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ① おすすめ図書による学びの広がり ② 研究だよりの発行
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p>「個に応じた指導力の向上」を目指し、研修会や研究授業等を行つてきた。全体研修会「個別の目標シートを作つてみよう」では、児童生徒の実態に応じた指導の手立てを、小グループで話し合うことで、目標や手立てを学年や学級の教員で共有することができた。アンケートからも「自分だけでは考えつかない手立てが、たくさん出された」「指導に生かせそうだ」など肯定的な意見が多かった。</p> <p>また、各学部での研究授業、事前事後検討会でも、個別の目標シートで共有した目標や手立てをもとに話し合いが行われ、指導の改善や個に応じた指導に生かすことができた。</p> <p>反面、個別の目標シートの作成について、改善を求める意見もあつたので、来年度の研究に生かしていきたい。</p>

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。